

約を締結し新舊役員全部辭表提出の上改めて之を選任することゝなせり従つて去る七月十日東京地學協會に開催せる舊重役派の招集せる臨時總會に於ても會議事項は全部決議を延期し單に右和解契約の承認臨時總會招集の件を可決して散會せり。

●神戸製鋼所擴張 曩に千二百噸の水壓機を増設して事業擴張を圖れる神戸製鋼所は今回更に千二百噸の水壓機を増設すると共に棒鐵角鐵の製造をなすの外砲身魚型水雷等の軍器をも製造する事となり目下準備中なるか棒鐵角鐵は昨今一般の需要多く頗る好成绩を告げつゝあり尙將來同所は現埋立地完成工場増築と共に板鐵、軌條等の製造をも試み室蘭製鋼所と東西相對抗するの準備となす由。

●鋼管擴張完成期 日本鋼管會社の擴張事業たる鐵管、鐵角物、鐵丸棒等月産凡そ二千噸の増加製造を目的とせる工事は目下進行中にして七月中には竣成すべく然る上は年額五萬噸の製品を得へしとなり。

●亞鉛業勃興 世界の亞鉛國と日本、世界の亞鉛工業國に於ける日本の地位如何と云ふ問題に付戰亂後の形勢は獨白の製造量頓と明かならざるも工學博士齋藤大吉氏の說明に基き大正二年の統計に徴すれば同年の世界亞鉛産額約百萬噸、此内譯は

米國	三二〇、〇〇〇噸	獨逸	二八五、〇〇〇噸
白國	二〇〇、〇〇〇	佛國	七〇、〇〇〇

英國	六〇、〇〇〇	和蘭	二七、〇〇〇
奧太利	二五、〇〇〇		

なるか尤も米國は今後更に著しき發展を示し昨年の産額は五十一萬噸となれり翻つて日本の産額如何を調査するに各會社共極めて内容を秘密に附せるも大約左の見當に在るは疑ふ可らず

大阪亞鉛	二〇、〇〇〇噸	三井	一〇、〇〇〇噸
高田商會	六〇〇	久原鑛業	五〇〇
鈴木	一、〇〇〇	其他	七、九〇〇
合計	四萬噸		

即ち新進の日本として既に和蘭、奧太利を凌駕し佛、英に次ぐの第六位に進みたること甚た喜ぶ可きの現象なれと更に米、獨、白の三大亞鉛國に對比すれば未だ幼稚の域に在るの誹謗を免れず。

▲新會社の勃興 亞鉛製鍊の巨擘は戰前疾く事業に着手せる三井及藤田組の大阪亞鉛にして前者は普通亞鉛を主とし後者は純亞鉛を専ら製造し其産額昨年一萬六千九百八十五噸此外普通亞鉛三千三百十噸、亞鉛末四百七十九噸あり近く生子亞鉛、電氣銅の製造を開始する筈なるか前述の如く高田、鈴木、久原の富豪亦續々亞鉛の製鍊を開始し其外東京にて資本金百萬圓の日本亞鉛會社創立せられ横濱の茂木商店亦斯業に着手の計畫あり岡山に福澤桃介氏等の大工場建設目論見あり是等は何れも相當大規模の經營に屬するも更に小規模の工場は最近關西方面にて六十箇所を算するに至

り亞鉛工業は目下一種の流行性を帯ふるに至れり斯業の前途如何に就いては亞鉛の市價大關係ある可く戰前一噸二十一磅なりしもの戰後頻りに暴騰し本年二月百十磅を告げたるに昨今は六十六磅となり其高低の激しきだけ殆んど前途を豫測するに苦むも大體上戰亂の爲めに破壊されたる獨白の製鍊所は之れか復舊に相當の時日を要すると共に戰後軍需品の補充職に行はる可く世界の需要は倍々増加するの一方なるを以て當分其好況を持続するは疑ひなく必ずしも一時の市價騰落に依りて全體の需要を悲觀するに足らざるか如し唯無數の小工場を統一し大規模の製造に改め技術の進歩を圖り倍々海外に發展を試むるの途に努力するあるのみ最近急激の發達を爲したる日本の亞鉛工業は漸く世界の注目を惹かんとす。

●木造船の建造 造船術の進歩に隨ひ我國に於ても三百噸以上の船舶は總て鐵材を以て建造せられ偶々木造船を製造すれば之を恥辱とする迄に進みしか歐洲戰爭以來造船界は一層活況を呈して船腹不足の急に應せんとする鐵材の不足と價格の騰貴は造船界に變調を來さしめ最近木造の船舶相踵いて建造せらるゝに至れり目下各造船所に於て新造中のものを擧ぐれば大阪三原造船所の八百噸二隻(内一隻は計畫中) 畫中) 藤永田造船所の七百七十噸二隻(内一隻は計畫中) 岡本造船所の千噸二隻(内一隻は計畫中) 七百五十噸一隻空造船所六百噸二隻(一隻は竣成) 七百噸七百五十噸各一隻小

倉造船所の七百噸一隻棧橋會社の六百五十噸一隻瀬戸内木江造船所の千三百噸(計畫中) 八百噸六百噸五百噸各一隻鳥羽竹中造船所の八百五十噸一隻同江崎造船所の三百四十噸一隻伊勢大湊市川造船所の千噸一隻同松崎造船所の五百五十噸三百四十噸各一隻總計二十二隻其噸數一萬六千噸に達し尙木造船の新造益々増加の傾向を示せり而して此の如き變調は造船界の爲めに悲しむべきことなりと雖も歐洲戰爭の終局以前は到底順調に復すること能はざるへしと。

●遞信省船用品検査所 十日の官報勅令第百七十七號を以て遞信省官制中改正の件を公布即日施行の旨發表せられたるか其要領左の如し

第六條に管船局船用品検査所を置き船用品の検査及試験に關する事項を掌らしめ遞信大臣は必要と認る地に船用品検査所の支所を置き船用品検査所の事務を分掌せしむるを得船用品検査所長及支所長は遞信技師を以て之に充つを加へ更に専任技師四十九人を五十二人に屬專任百六十人を百六十三人に技師六十二人を七十三人に増加す。

右に付若宮管船局長の談に依れば曩に三十七議會の協賛を経たる船用品検査所は既に其敷地を大阪安治川口に決定し設備工事中なるか該機械は英國會社に注文中なるを以て近く到着次第据付をなす筈なり而して今回遞信省官制を改正し技師一名技師一名を該検査所に專屬配置する事となりたり尙明年度は更に技師技師手屬各一名を増加する筈にして愈々其事業を開始するは明年十月頃なるへしと